

## 1. 略歴

1972年4月	東京大学教養学部文科Ⅲ類入学
1974年4月	東京大学文学部印度哲学印度文学科進学
1976年3月	同上 卒業
1976年4月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻修士課程入学
1979年3月	同上 修了
1979年4月	東京大学大学院人文科学研究科印度哲学専攻博士課程進学
1983年3月	同上 単位取得退学
1984年1月	インド・プーナ大学サンスクリット高等研究センター在学（～1986年1月）

（文部省給費留学生）

1983年4月	財団法人東方研究会専任研究員（～1990年3月）
1990年4月	武蔵野女子大学短期大学部専任講師（～1992年3月）
1992年4月	東京大学文学部助教授
1995年4月	東京大学大学院人文社会系研究科助教授（大学院部局化に伴う）
1999年1月	同上 教授（～現在）

<学位>

2011年11月	博士（文学）（東京大学）
----------	--------------

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野 b 研究課題

専門分野はインド哲学。インドの哲学的思索の伝統諸派（ダルシヤナ）のなかで、特に多元論的世界観と分析的、合理的思考を特徴とする、ニヤーヤ学派（インド論理学派）・ヴァイシェシカ学派のサンスクリット文献の解読・解釈、およびその思想（史）研究が中核となっている。そうした専門分野の研究成果を核としつつ、最近の研究課題は、(1) インド思想における哲学と宗教の交錯関係をテキスト実証的に解明しつつ、インドの寛容精神あるいは包括主義と呼ばれる思想を、宗教多元主義や異宗教間対話・共生、あるいはサステイナビリティ問題といった現代的な問題意識から見直すこと、(2) 「(インド) 六派哲学」という概念の展開を追跡して、インド哲学史の見直しを図ること、さ(1)らには(3) 文部科学省科学研究費補助金基盤研究(A)「インド哲学諸派における〈存在〉をめぐる議論の解明」(2011～2014年度)を研究代表者として総括した上で、特にインド哲学諸派における「因果の思想」に関する新たな共同研究への発展を図る予定である。

### c 概要と自己評価

この2年間の研究活動は、前半1年間は、上記の研究課題の中の(3)に、後半の1年間は(1)に重点を置いていた。(2)については特に進展を見なかった。2014年度は上記科研基盤(A)の最終年度にあたり、その注目すべき成果の一つが、若手・中堅研究者による意欲的な研究成果を集めた論文集を、『インド哲学と教学研究』22（特別号）として公刊したことであり、丸井はその編集責任者を務めた。またそれに先立って、①本共同研究を構成する4つの研究班の代表者が中心となり、インド哲学の存在論（世界認識の枠組）を「因果」「普遍と個体」「言葉と存在」「神と世界」という4つの切り口から、各班の代表者がそれぞれ分析する報告と、②西洋哲学ないしユダヤ哲学の専門家との討論、③さらには西洋哲学（古代ギリシア哲学）の専門家による基調講演から成る、公開シンポジウム「インドが育んだ世界認識の枠組み——東西哲学対話の再出発——」（東京大学文学部、2014年11月23日）を企画し、その基調説明を行い、かつインド哲学諸派における因果の思想に関する報告および西洋哲学研究者との討論を行った。従来のインド哲学研究では、プラマーナ論（認識論・論理学）を除けば、一つの学派に限定された研究が圧倒的に多く、とりわけ「存在論」「カテゴリー」という切り口から、学派横断的に研究されることは世界的に見ても殆どなかった。「東西哲学対話の再出発」を意図した比較哲学の試みとしても画期的であった。その意味では本シンポジウムの企画自体に大きな意義があったと思われる。ただしそのシンポジウムの成果がまだ具体的な出版物として実現していないことは今後の課題として残された。他方、研究課題(1)に関しては、主として学会での基調講演や、さまざまな場での招待講演が中心であり、あまり知られていないインド哲学の諸相を一般に人々に話す機会として、あるいはインド哲学の現代的な意義についての議論を開く機縁としての意義は大きかった。しかしその成果を論文や著作としてまとめる仕事の多くは、その後の課題として残されている。

#### d 主要業績

##### (1) 編集 (共同)

丸井浩 (代表編集者) 『インド哲学仏教学研究』22 (特別号), 2014年3月.

##### (2) 論文

丸井浩「インドの寛容思想と包括主義——中村博士の思想研究の眼差し——」(特集1「共生の思想——中村元の「慈悲」の思想をてがかりに——」)『比較思想研究』41, 2015.3, pp.18-27.

丸井浩「世界平和への希求——人類の教師, 中村先生からのメッセージの重み」『日本仏教教育学研究』24, 2016年3月, pp.19-41 (2015年11月14日に松江市の中村元記念館で開催された日本仏教教育学会第24回学術大会シンポジウム「中村元博士と教育」・基調講演の原稿に一部加筆・修正を施したもの).

##### (3) 学会口頭発表 (論文発表となったものは除く)、シンポジウム、招待講演

丸井浩 基調説明(公開シンポジウム「インドが育んだ世界認識の枠組み——東西哲学対話の再出発——」の冒頭)、東京大学文学部、2014年11月23日.

丸井浩「因果」(公開シンポジウム「インドが育んだ世界認識の枠組み——東西哲学対話の再出発——」における報告)、東京大学文学部、2014年11月23日.

MARUI Hiroshi, "An attempt to consider the issue of sustainability philosophically: Returning to the basis" (Invited speech), Roundtable 1: Sustainability Concept, The 3rd. GPSS-GLI International Symposium, Kashiwa-no-ha Conference Center, 19 Jan., 2015.

MARUI Hiroshi, "What do we mean by 'I': A debate with materialists and Buddhist Impermanence-theorists" (Invited colloquium lecture), the Philosophy Department EPOCH Project, the University of Hawaii, Sakamaki Hall, 13 Mar., 2015.

##### (4) 講演録、その他

丸井浩「人は生れながらにして三つの負債を負う——古代インドのおかぢさまの思想——」『モラロジー研究』73, 2014年9月, pp.1-25.

丸井浩「特別号刊行にあたって」『インド哲学仏教学研究』22 (特別号), 2014年3月.

##### (5) 講演など

丸井浩「頭を空っぽにすることの大切さ——インド哲学と仏教から学ぶこと——」(平成26年度足利学校アカデミー第1回講義, 2014年6月14日)

丸井浩「“無分別”との出会い」(NHK ラジオ放送第二「宗教の時間」、2015年5月17日番組出演)

丸井浩「多宗教の国インド——多様性の中の統一」(平成27年度鶴岡文庫・東方学院共催講座「東洋思想から共生を考える」、鶴岡八幡宮鶴岡文庫、2015年5月17日)

丸井浩「すべての宗教は正しい——9世紀のインド論理学者の議論——」(平成27年度足利学校アカデミー第1回講義、2015年6月20日)

丸井浩「無分別知を考える——矛盾の中で生きぬくための知恵を求めて——」(構造計画研究所・社内講演会、2015年12月11日)

丸井浩「インド論理学入門」(経済金融研究所・定例研究会、日本文化興隆財団、2016年1月20日)

丸井浩「「無我」の教え——対立を乗り越えるための知恵」(第724回『仏教文化講座』、浅草寺主催、新宿明治生命ホール、2016年3月28日)

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等・学会役員

学習院大学非常勤講師 (思想史講義)、2014年度、2015年度

NPO 法人中村元記念館東洋思想文化研究所 (東方学院松江校) 非常勤講師 (集中講義)、2014年度、2015年度

日本印度学仏教学会理事長、2014.8~2016.3

日本宗教学会、評議員、2014.4~2016.3

#### (2) 学外組織 (学協会、省庁を除く) 委員・役員

日本学術会議会員第22期 2011.10~2014.9

日本学術会議第23期連携会員 2014.10~現在

財団法人東京大学仏教青年会、理事、2012.4~2014.3

公益財団法人中村元東方研究所、主任研究員 2014.4~現在、常務理事・事務局長 2014.4~現在

財団法人大法輪石原育英会、理事、2014.4~現在